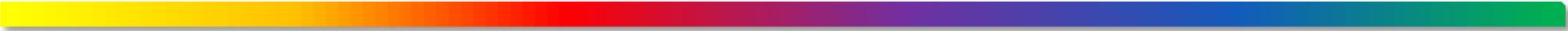




# Pro check

ファクト情報活用サービス

# Pro check



**Trust check**

-トラストチェック

**Safety check**

-セーフティチェック

**Negative check**

-ネガティブチェック

**Risk check**

-リスクチェック

**Conflict check**

-コンフリクトチェック



# Risk check

---

## リスクチェック

インシデント確認後にどんなリスクが？実態と原因を解明してセキュアに導く  
為に実施するプロセスです。

### 【対象】

業務妨害先、問題行動社員、問題発生部署、クレーマー、契約不履行先等

# まぎわ。

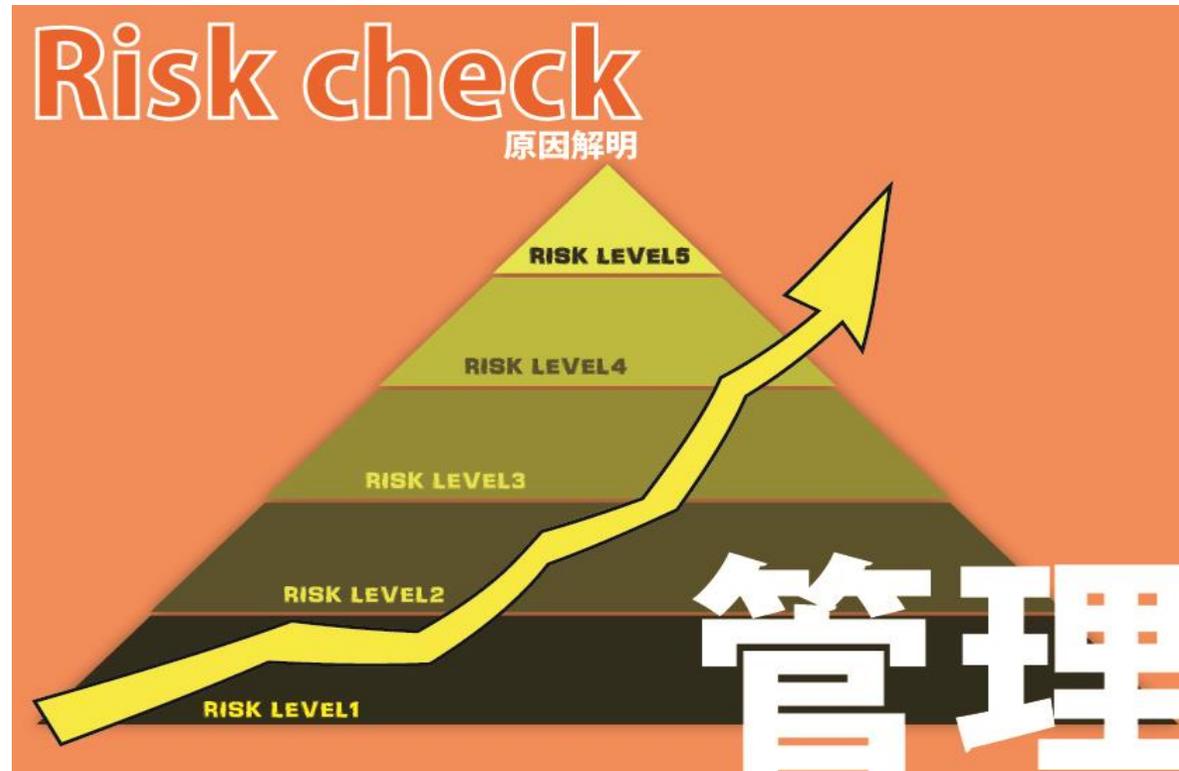
インシデントと事故(アクシデント)との関係を数値化したものに※ハインリッヒの法則が広く知られています。

インシデントを管理する目的は、再発防止とアクシデントに発展することを防ぐことにあり、いずれにしても次に起こり得る事故を未然に防止することにあります。

しかし、インシデントが起きてはじめて始動する管理体制では、インシデント発生間際(まぎわ)の手順や手法が見直されることはありません。

もしそのような状況ならば、それ自体もインシデントであり、企業にとってのリスクそのものであると私共は考えております。

リスクチェックでは原因を徹底的に解明するだけでなく、リスクレベルに応じた管理体制構築に貢献いたします。



【ハインリッヒの法則】※1件の重大事故の背後には29件の軽微な事故があり、さらにその背後には300件のインシデント(ヒヤリハット)が存在するとしたものです。

# Risk check

# 一助に。

リスクアセスメントを行う方法として「ヒヤリハット」事例は労災防止の観点から度々用いられます。(右図は厚労省発表の総件数)

しかしながら企業が抱えるリスクはこのような労働災害ばかりではありません。

人事・労務問題や社内外に潜在する広範に亘るリスクの1つ1つに、多種多様な発生原因が認められ、個別に再発防止策を講じる必要があります。

それらすべての事案に対して自力でアセスメントを重ね、管理体制を整備していくことに限界があるのも事実です。

「リスクチェック」では、こうした企業様の過度な負担を軽減するために、私共がビジネスシーンの様々なリスク局面で対応してきた経験が一助になれば幸いと考えております。



## Risk check

# 堰堤。

企業にとってガバナンスが効いているとは、いったいどのような状態なのでしょう？

私共は整備された河川で、生息する生物のすべてが生き活きとして  
いる状態がそれに当たるのではないかと考えております。

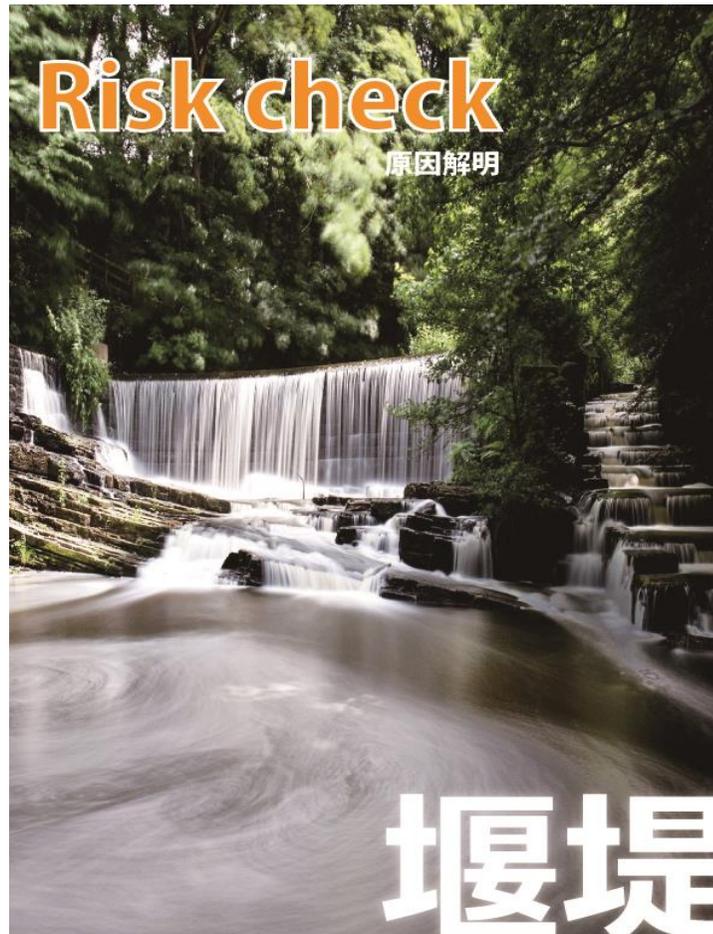
時に河川は氾濫などの水害をもたらします。

一旦水害が発生した場合には、堰堤などを設け流水を制御(コントロール)することが重要です。

これと同様に企業に於いてもインシデントが発生した場合には、原因を  
解明して再発防止に努めることが重要です。

そして整った環境の中で、所属する社員が生き活きといられることにより、  
生産性も上がり延いては業績の向上に繋がるのではないのでしょうか。

リスクチェックでは、蓄積されたノウハウを活かしインシデント発生以後  
の環境整備に寄与させていただきます。



# Risk check

**RISK Check結果報告書**

項目	結果	リスクレベル
リスク発生回数	0	0

**【結果報告】**  
ハザード発生原因を  
説明。マトリクス表で  
リスクの強度と頻  
度がひと目でわ  
かります。

項目	説明	発生頻度	リスクレベル	対策
1	洪水	4	4	・
2	土砂崩壊	4	4	・
3	崖崩壊	4	4	・
4	落石	4	4	・
5	崖崩壊	4	4	・
6	崖崩壊	4	4	・
7	崖崩壊	4	4	・
8	崖崩壊	4	4	・
9	崖崩壊	4	4	・
10	崖崩壊	4	4	・
11	崖崩壊	4	4	・
12	崖崩壊	4	4	・
13	崖崩壊	4	4	・
14	崖崩壊	4	4	・
15	崖崩壊	4	4	・
16	崖崩壊	4	4	・
17	崖崩壊	4	4	・
18	崖崩壊	4	4	・
19	崖崩壊	4	4	・
20	崖崩壊	4	4	・
21	崖崩壊	4	4	・
22	崖崩壊	4	4	・
23	崖崩壊	4	4	・
24	崖崩壊	4	4	・
25	崖崩壊	4	4	・



# Case I 商品開発。

ファースト社は主に健康食品などを開発・販売しているメーカーである。それはとある偶然から開発された製品の商品化が進み販売を間近に控えた時期の事であった。

販促戦略会議中の席に営業部の課長が『大変です』と飛び込んできた。詳細を聞いてみると競合のセカンド社が類似商品を2週間後に販売するとの情報であった。

ファースト社の商品はどれだけ急いでも販売は2か月後である。今回の商品についてはラボ近くの自然の恵みがもたらした成分が含まれており効果については絶対の自信がある。ただお客様に効果を実感していただく前に他社の類似品が周知浸透してしまうと厳しい競争となる。しかし腑に落ちないのはセカンド社の販売時期だ。このタイミングの背景には何か裏があるのではとファースト社の誰もが感じた。

そこで調査を実施して驚くべき結果を得た。ファースト社の販売戦略会議にも出席していた営業部長から新商品についての情報が漏洩していたのである。

※直ちに弁護士を通して、ファースト社の商品は特許出願中である為、先々特許侵害に当たる可能性があること、同判断が出された際はセカンド社のブランド価値が毀損する可能性を示し販売を自主的に中止することで和解した。

## 商品開発



類似品

調査期間

20日間

# Risk check

# Case II 問題社員。

雑貨店を複数店舗展開するサード社の話である。これまで物販の仕入に係る職務経歴を持つ小田氏を中途採用してから半年ほど過ぎた頃である。

その日は急な欠勤者が出て小田氏にある店舗の接客をお願いすることとなった。

接客は苦手であるとの申出を受けていたので、極力店舗に配置しないようにしてその日も急なお願いだったので最も来店客数の少ない店舗に行ってもらうことにした。

開店から1時間ほど経った頃に小田氏から事務所に電話が入り「棚から商品が落ちてきて足を怪我した」とのことであった。

急遽内勤者を同店舗に行かせ小田氏には病院に向かってもらった。数時間後「全治1週間の診断を受けた」と事務所に松葉杖をつけて現れた。

小田氏には翌日から休んでもらうことにした。1週間が過ぎようとした頃、小田氏から「後遺症が残りそう」だとの電話が入り、そもそも大きな怪我をするような重い商品を扱っていないことから怪我の度合いを不審に思い調査を実施。

小田氏は自宅付近で自転車に乗っていたり、松葉杖を小脇に挟んで闊歩して病院に向かう光景などを確認した。虚偽申告である。

※後日、その事実を基に本人と協議した結果小田氏は依願退職をした。

## 問題社員



調査期間

4日間

# Risk check

# Risk checkの概要

---

商品名	Risk check (リスクチェック)
商品の内容	業務妨害をしてくる競合他社・問題社員等についてインシデント発生原因を解明して被害拡大や再発防止をする為に行う調査
サービス内容	初期情報精査・初動対策の提案(基本)、内偵調査(各種情報収集)、取材・聴込み、行動監視、張込撮影、その他内偵、報告書作成
商品サイズ	A4・30~70ページ程度
使用機器	デジタルカメラ・ビデオカメラ・ボイスレコーダー・その他
納期	原則調査終了後、調査実施日数期間以内のご報告
オプションサービス	接触者・交友関係者に対する調査(1時間単位) 指定場所張込(1時間単位) 指定場所撮影(1時間単位) その他お客様のニーズに合わせた対応をします。(別途お見積)

## 【費用の詳細】

初期情報精査・初動対策提案(基本)	¥80,000- (消費税別)
内偵調査/1件	¥30,000- (消費税別)
取材・聴込み/1件	¥30,000- (消費税別)
張込撮影/1時間	¥15,000- (消費税別)
行動監視/1時間	¥15,000- (消費税別)
その他内偵/別途お見積、報告書作成/無料(1部)	

※交通費・燃料費・宿泊費などの経費実費は、別途加算されます。

# Risk check

---